

事業計画書

<p>現在の地域課題に対する本事業での実施内容</p>	<p>以前、当団体で「高齢者の繋がり和社会活動に繋げる為の実態調査アンケート」行った際、340人回答中69人(20.3%)が独居、92人(27.1%)が日中独居である事が分かった。アンケートの結果、6人に1人は誰ともしゃべらない日があると答えており、データからも社会的に孤立をしている方が多数いる事が判明しており、臼田地域の課題の1つと捉えている。</p> <p>令和3年度佐久市主催の地域まるごとキャンパスでの協力団体として、佐久大学の学生18名と社会的処方テーマに活動した中で、この臼田地域の課題解決の為に、佐久の学生と一緒にゼロベースから企画立案したものを具現化させる事により、若い世代を地域へと巻き込み地域の課題を机の上だけではなく、実際に体感してもらう。また、高齢者には学生との交流を持つことでコロナ禍の中、鬱々とした状態に少しでも楽しみを持って頂く。</p>
<p>対象となる人・範囲</p>	<p>臼田地域の高齢者、社会的処方(社会的処方:「地域とのつながり」を処方することで、問題を解決するというもの)に興味を持っている学生</p>
<p>事業の効果、達成目標 (達成目標はできる限り数値で示すこと)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>記載ポイント</p> </div>	<p>【達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆企画立案・実施→大学生・高校生10名 ◆イベント参加者→40名 ◆企画会議実施2回 ◆イベントチラシデザイン・作成 <p>5000部→うすだ地域全世帯ポスティング 1000部→手配り分 1000部→コロナウィルス感染状況等の影響により、延期になった場合の再告知印刷予備分</p> <p>このプロジェクトを通して以下の効果が期待できる。</p> <p>【学生達に取っての効果】</p> <p>①地域課題解決の為に、ゼロベースから立案した企画を実際に具現化させる事で、学生達に創造力をつけてもらうと共にデータ上だけではなく、地域に出る事で地域課題を再認識してもらえる。</p> <p>②今後AIの発展と共に益々必要とされるであろうと言われている、STEAM人材育成(STEAM教育:各教科での学びを実社会での課題解決のために活かしていく為の教科横断的な学習)の一助に成りうる。</p> <p>【地域の高齢者に取っての効果】</p> <p>③コロナ禍で中々人と喋る機会がない皆さんへカレンダーに予定が1つ書き込める事で、良い刺激と楽しみを創出でき、世代間交流を通して人・社会・地域との繋がり大切さを実感してもらえる。</p> <p>④こころの健康はとても大切であり、非医療的アプローチを地域に対して施す事で、少しでも元気になってもらえる。</p>

<p>詳細</p> <p>(活動内容・方法・スケジュール等をできるだけ詳しく、別添資料のある場合はその旨を記載する)</p> <p>記載ポイント</p> <p>事業の</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自性 ・発展性 	<p>元企画「HRM」ツアー *別紙参照(令和3年度地域まるごとキャンパスの中で学生達が企画したもの)ここから実現できるものだけを抽出、また追加をしていく予定。主な内容は学生と、地域高齢者との交流で、昔の遊びを通して交流を図る。一緒に綿菓子を作ったり、駄菓子を食べたり等。実際に高齢者と交流を持つことで、生のお声を直接聞いて頂きこれからの学びに役立てもらう。</p> <p>企画側の大学生募集に関しては佐久市市民活動サポートセンターや、佐久大学の先生を通して募集をかける予定。イベント参加者(高齢者)の募集方法等に関してはチラシやSNSを通して周知する。企画から実施に至るまで一連を通して体感して頂く。</p> <p>5月学生さん募集・企画会議 7月・8月イベント準備 チラシデザイン等 9月一般告知。広報活動。 10月実施 *コロナの感染状況を加味しつつ、実施日を検討してく予定。9月～10月の間で検討しています。</p>
<p>重点テーマに該当する理由</p>	
<p>翌年度以降の取組</p>	<p>「うすだの街づくりラボ」の月1回の継続的活動。 「うすだの街づくりラボ」とは、臼田地域の健康や地域の生活課題について、気軽に話し合える場であり、また参加者の横の繋がりをつくれる場である。 可能な範囲で自分達でできる小さなアクション(解決策)を考えていき、話すだけでは終わらない実践型の活動。まちづくりのアイデアを皆で出し合って、ちょっとした実験を一緒に進め、地域に役立つ活動を小さく始めて大きく育てることを目的としている。 この活動を通して、地域との繋がり、仲間との出会い、社会参加への機会を気軽に作れる場を提供していく。</p>

お宅訪問から始まる！
H(訪問)R(料理)M(祭り)ツアー

【背景】

3つのグループでそれぞれ、うすだ美図が感じている地域課題の1つ、社会的に孤立している高齢者が多く、その課題に対して自分達ができる事を企画してもらった。出来上がった企画を3グループそれぞれプレゼンした後、学生参加者全員で3案の企画でどれが一番良いかを選択。その中で選ばれたのがこのHRM(エイチ・アール・エムツアー)。

【学生案】

まず、高齢者と関係を持つ、仲良くなる1歩として

1.お宅訪問

→高齢者のお宅に訪問してお喋りをしたり、家事や掃除を手伝ったり、一緒にお散歩をしたり、農作業のお手伝いをして高齢者と仲良くなったりたくさんのお話を聞く。

次に仲良くなった高齢者の方々と

2.お料理教室(おじいちゃんもおばちゃんも)

→古くからある伝統料理や地域ならではの料理を教えて頂いたり、お菓子作りを一緒に行う。また、私たちの世代で流行している食べ物を一緒に作り食べる、オリジナル料理を考案して作る。そして、このお料理教室で教えて頂いたり、考案した料理をお祭りの屋台で出す。

3.お祭り

→お料理教室で作った料理を屋台として出したり、昔ながらの遊びを行うブースを設けたりなど高齢者の方々や地域の方々が楽しめるお祭りを開催する。

最終目標として、

4.旅行

→お祭りで得られた資金を使い旅行に行く。このご時世なので場所は遠い所に行くわけではなく近場でも良い。楽しい旅行にする。

【今後の流れ】

現段階では実現性は度外視した企画であり、ここから次の企画会議では具現化のプロセスを踏む必要あり。実行可能と実現不可の振り分けが必要であり、その後実施に向けてのアクションプランをつくる予定。